

けやき

令和4年度

5月号

NO. 541

練馬区立南が丘小学校

校長 後藤京子

開校記念日を迎えて



校長 後藤 京子

新緑の美しい季節となりました。南が丘小の校庭もけやきの若葉が色を増し、眩しく輝く青葉で彩られています。始業式、入学式を終えて1か月、4月から小学生となった1年生をはじめ子供たちは、新しい環境に慣れ、元気に学校生活を送っています。

さて、5月1日は開校記念日です。昭和51年に開校した本校は、今年、開校47年目を迎えます。

昭和51年4月、石神井東小113名、南田中小189名を母体校として、新たに87名が新生として加わり、区内に53番目の学校として児童数499名で開校しました。開校当時を振り返った教職員の方による「新しいが、つめたい校舎で校庭がやけに広く感じたのは4月だった。木一本ない学校をどのようにうるおいのある環境にしていくかがわたし達の課題だった。」との記録が残っています。この後、「植樹」「花壇の設置」「百葉箱と教材園の設置」、また、翌年には、「藤だな」「堆肥小屋作り」が計画的に行われていきました。当時の先生方、主事さん方が土まみれになりながらスコップを動かしている姿が目につかびます。また、飼育小屋の周りがある八重桜二本を南田中小PTAから、ソメイヨシノの二本は石神井東小PTAから、それぞれ寄贈されたそうです。学童保育の南には、アカマツが第1回卒業生により、植樹されたそうです。現在南が丘小学校には、シンボルのけやきの木以外にも、たくさんの樹木が植えられ、四季折々、武蔵野の面影を残すこの地に様々な表情を見せています。子供たちは、暑い日も寒い日も、この校庭で元気に遊んでいます。コロナ禍で、交流活動に制限のある時期もありましたが、これからは、本校の特色である縦割り班活動やペア学年による活動が少しずつ復活できることを願っています。

今年度、この校庭を使った運動会を次のように考えています。回数を2回にし、春は、縄跳びによる表現運動と学級対抗リレー、秋は、表現運動と短距離走をそれぞれ2種目ずつ行います。感染状況にもよりますが、保護者の方には入れ替え制をお願いし、児童は前日の児童鑑賞日に見合います。どうぞ、子供たちの成長した姿を楽しみにしてください。